

科目	直接投資論	担当	雨宮 康樹	履修学年	3年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	選択	単位数	2単位

【授業目標・到達目標】

20世紀後半、急速に進展した経済のグローバル化は私たちの生活のあらゆる側面にさまざまな影響を与えている。授業ではグローバリゼーションの歴史を概観しながら、直接投資の問題に焦点を当て、その定義や決定要因、歴史を解説する。グローバリゼーションの現状を理解するとともに、グローバリゼーションのプラスとマイナスの側面をていねいに説明したい。

【履修注意】

講義開始時に履修上のルールを説明する。ルールを順守できないと思う学生は、第1回講義終了後、履修変更すること。

【評価方法】

中間まとめ、期末試験(80%)および出席(20%)

【試験について】

中間まとめ、期末試験を実施する

再試験対象者の条件：中間まとめと期末試験の平均点が50点以上の者

【予習・復習】

学修時間は1単位45分が文部科学省指針。1単位科目は90分の講義に対して45分、2単位科目は90分の講義に対して90分の自宅学習(予習、復習)が必要。

【教科書】

【参考書】

購入教科書なし。

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	直接投資とは何か	グローバリゼーション 多国籍企業
2	直接投資の決定要因	企業の持つ優位性 立地の優位性
3	第一次グローバリゼーション(1)	大企業の誕生 19世紀末から始まるグローバリゼーション
4	第一次グローバリゼーション(2)	第一次大戦とロシア革命
5	第二次大戦後の国際経済体制(1)	ブレトンウッズ体制 世界銀行 IMF GATT
6	第二次大戦後の国際経済体制(2)	ニクソンショックとブレトンウッズ体制の崩壊 変動相場制
7	石油ショックと世界経済	スタグフレーション 不況下におけるインフレーション
8	復習	前半のまとめと復習
9	80年代の経済とプラザ合意	冷戦下におけるレーガン大統領と強いドル
10	バブルの発生と日本企業	金融政策 財政政策 バブルの発生 日本企業の海外直接投資
11	第二次グローバリゼーション(1)	1990年から2000年 社会主義国家の崩壊 IT革命
12	第二次グローバリゼーション(2)	2001年から今日まで 新興工業国の台頭
13	第二次グローバリゼーション(3)	先進工業国の労働市場
14	これからの世界経済	現状の問題点と展望
15	総まとめ	グローバリゼーションの中の日本
16	期末試験	15コマの復習・確認・総まとめ